

クローズアップ NGO・NPO

多言語絵本の会 RAINBOW

代表 石原 弘子

ひとつの絵本を母語と日本語で、
異文化理解と母語保持を願って

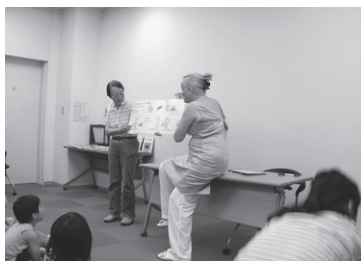
■ 多言語でよみきかせ

「うんとこしょ どっこいしょ」

「嘿哟、嘿哟（へいよー へいよー）」（中国語）

これは、絵本『おおきなかぶ』の一部分です。日本語に続いて、外国語でのよみきかせが聞こえます。ちょうど同時通訳のようなリズムです。聞く子どもたちは、ほぼ全員日本人で、内容を日本語で理解しながら絵を見えています。外国語が聞こえる間はリズムを感じながら絵を見えています。

私たちは、このような「多言語よみきかせ」を毎月第4水曜日に目黒



日本語と英語で、イギリス人と

区立八雲中央図書館のお話会で行っています。月ごとに外国語は、中国語・韓国語・タイ語など変わります。

「多言語絵本の会 RAINBOW」の設立は、「にほんごの会くれよん」に参加された外国人のお母さんたちとの出会いから始まりました。

私は、1998年暮れに大阪から東京都目黒区へ引っ越した後、小さい子どもを連れて参加できる「にほんご教室」がないことに気がきました。2000年4月に、「子どもといっしょ*にほんごの会くれよん」（2004年「にほんごの会くれよん」に変更）をつくり、毎週木曜日10時から15時まで、日本人も外国人も1日100円で参加できる「にほんご教室」の活動を始めました。

その活動の中で、日本人の夫から分からない言葉で子どもに話さないでほしいと言われた人、自分の母語は日本では必要がないと言う人など、日本語さえできれば良いという人たちや、日本語、英語、母語の3言語で育児をしている人に出会いました。母語の継承が個人の問題になってしまっていて良いのだろうか、社会が応援できないだろうかと思いました。

そこで、2006年に「多言語絵本の会 RAINBOW」をつくり、外国人が母語を使える場、日本人が異文化に触れられる場として、図書館でよみきかせ活動を始めました。読み手は、「にほんごの会くれよん」に参加している外国人と日本人などで、中にはほとんど日本語が分からないという方もいますが、どの方も終わった後で、楽しかった、また読みたいと言ってくれます。

2009年からは、目黒区教育委員会の小学生を対象とした異文化理解教育事業や東京都人権啓発センターの事業にも協力し、小学校で外国人が絵本などを使い自国を紹介する事業も行っています。

■ 目黒区子ども条例のえほん 『すごいよ ねずみくん』の多言語化

2009年3月、目黒区は子ども条例を子どもたちに伝えようと区内在住で絵本・童話作家のきむらゆういち氏に依頼し、目黒区子ども条例のえほん『すごいよ ねずみくん』を刊行しました。体が小さくいつも自信がないねずみくんが、友だちの動物を助けることで、みんなから「すごいよ



きむらゆういち作、鈴木アツコ絵

「ねずみくん」と言われるお話です。

多言語絵本の会RAINBOWでは、日本語の分からない子どももこの本が楽しめるように、作者や目黒区から許可を得て、英語、中国語、韓国語、独語、仏語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語に翻訳、音訳し11言語の電子絵本を作成しました。これらは目黒区子育てネット (<http://megurokodomo.net>) で視聴することができます。日本に来た外国につながっている親子が母国語に触れられるように、日本から外国に行く親子が日本語を忘れないように、このサイトが活用されることを願っています。

■ 外国につながる子どもの ■ 読書環境をつくるために

東京では国際結婚は10組に1組と言われるくらい、多くの日本以外の文化背景をもつ子どもが生まれています。私たちは、ひとつの絵本を日本語と母語の両言語で読めることが、日本語以外の言語を育てるために有効であり、日本語だけで育つ子どもたちの異文化理解にも役立つと考えて活動しています。しかし、図書館では英語、韓国語以外の言語の外国語絵本は大変少なく、絵本文化が発達している国とそうでない国があるなど同じ絵本を多言語でそろえることが課題です。毎回読み手と聞き手にあわせた選書と読み方に工夫をしています。

図書館のよみきかせでは、幼児になじみ深い日本語絵本とその翻訳本が多い一方、小学校では、外国語絵本とその邦訳本が多いです。邦訳本がない場合は翻訳を行い使用しています。日本語絵本の翻訳本の有無は、国際子ども図書館の所蔵本を調べることが多いですが、あるということが分かって、地域でのよみきかせのために貸し出してもらえず、とても残念に思っています。外国語絵本には、知らない国の文化がいっぱい描かれ、見たことのない文字が書かれています。見ただけでは、まったく理解できなくても、絵を見ながら、響きをもつ音を聴き、日本語で内容が理解できることは楽しい経験だと思います。時に外国語絵本をもっと見たいという子どもにも出会います。

当会でも助成金を使い数種類の絵本を取りそろえています。韓国語絵本は、韓国の方にインターネットで購入していただき、中国語は北京のポプラ社で、タイ語は紀伊国屋で購入します。タガログ語、インドネシア語は、一時帰国される方を買ってきてもらいますが、どの場合も、原作が外国語の場合、表紙だけで判断して買うため内容がはずれる場合も多いです。

外国語絵本の邦訳本の有無、日本語絵本の翻訳本の情報がまとまっていれば、多言語よみきかせが広がるだろうと考え、これまでの経験から推薦できる「多言語よみきかせに使える本」というリストをつくり、当団体のHPに掲載しました。

地域で、日本語以外の言語を継承、育成しやすくなるように、図書館と日本語支援団体がタイアップして、多言語よみきかせに取り組んでいただくことを願っています。外国人にとって、自国語で読むことは、良い地域参加の機会です。出版社には、ぜひ、海外での翻訳本出版情報をHPに掲載することと、2言語表記の絵本の刊行を検討していただきたいです。また、図書館には、外国語絵本に要約をつけていただきたいと思います。

当会では、外国につながる子どもの読書環境を整うことを願って、「子供未来とうきょうメッセ」(2014年2月11日)や「めぐろ子育て交流ひろば0123」(2014年2月17日)で、展示説明をするなど今後も取り組んでいきます。